

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業・継続)

No. 583

事務事業名	公共下水道雨水施設整備事業
-------	---------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	上下水道局		
課名	下水道工務課		
課長名	坂野 憲一	内線	50
担当者名	山本 雅喜	内線	51

基本目標	050304	機能的で環境と調和したまち
政策		快適で暮らしやすい都市環境の整備
施策		上下水道の整備
関連施策	030101	防災対策の推進

会計	大村市下水道事業会計		
款	4	下水道事業資本的支出	
項	1	建設改良費	
目	2	公共事業	
事業コード			

事業類型	7	施設等整備事業(負担金含む)
個別計画	大村市公共下水道事業計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	公共下水道区域内の住民及び雨水施設・雨水排水ポンプ施設		
意図 対象をどのような状態にしたいか	排水区域内において、降雨時に浸水被害が発生している地域や、浸水被害が予想される地域の雨水を排除するため、道路・水路等に雨水渠を布設して、家屋等への浸水防止を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	下水道計画排水区域である2,393haの、降雨時における浸水被害の防止を目的に雨水渠を布設するとともに、雨水排水ポンプ場の改築更新を計画的に行う。 認可面積 A=2,393ha、整備済面積 A=1,350ha、整備率 56.4%、雨水渠全体延長 L=183km、整備済延長 L=85,322m		
事業期間	昭和 49 年度 ~ 平成 42 年度	実施方法	直営

成果指標名	雨水整備率(事業認可区域内)			算定式等 =雨水整備面積(ha) / 事業計画区域面積(ha)
着手前現状値	平成 27 年度	単位	%	
完了後計画値	平成 42 年度			

【DO(実施)】

事業実施項目	25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額							
	項目別進捗率							
実施設計	実績・計画額							
	項目別進捗率							
用地・補償	実績・計画額							
	項目別進捗率							
建設工事	実績・計画額	13,528,927	341,831	231,384	226,200	313,700	326,000	375,900
	項目別進捗率	47.07%	48.26%	49.06%	49.85%	50.94%	52.08%	53.39%
事務費等	実績・計画額							
	項目別進捗率							
合計	実績・計画額	13,528,927	341,831	231,384	226,200	313,700	326,000	375,900
	項目別進捗率							

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	652,680	341,832	135,480	226,200	313,700	326,000	375,900	0
国庫支出金	268,242	157,511	61,015	107,850	150,200	113,000	137,950	
県支出金								
地方債	347,932	162,006	66,407	107,040	147,815	196,700	219,155	
その他	36,506	22,315	8,058	11,310	15,685	16,300	18,795	
一般財源								
② 人件費(千円)	27,947	30,313	25,715	9,753	事業内容	事業内容	事業内容	B/C
職員人数(人)	3.23	3.52	3.31	1.26	管路延長 L=2,130m	管路延長 L=2,215m	管路延長 L=2,666m	
時間外勤務(時間)	1139	1856	1185	295				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	680,627	372,145	161,195	235,953				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年度は、街路整備事業との調整を行い工事の同時施工を実施したことに伴い、コストを削減することができた。又、雨水管布設工事の実施により1.2haの面整備を行うことができ、浸水被害防止を図ることができた。
事業が抱える問題・課題等	用地買収、用地借地、電柱・水道管等の支障移転等、市民の協力が必要となる。又、街路整備事業や新幹線事業と同時施工する場合は、綿密な協議及び調整が必要になる。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	雨水渠の整備は、市街地内に降った雨水を集めて、河川や大村湾へ速やかに排除することで浸水被害を防止するものであり、市民の生活を守り、安心して暮らせる住環境をつくるために必要な事業である。						
有効性	【緊急性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	雨水渠の整備については、近年の人口増加に伴う宅地開発や都市型降雨が頻繁に発生していることから、市民からの要望も高まっている。このようなことから浸水被害を防止するために早急に行う必要がある。						
効率性	【施策成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	事業計画区域内における平成27年度末の雨水整備率は、56.4%となり計画どおりの成果を上げている。						
負担割合	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	年次計画を定め、他部署と調整しながら計画的・効率的に整備を進めている。又、排水ルートの見直しを行い、汚水管との同時施工を実施することで、工事におけるコストの大幅な削減を図っている。更に、公共工事コスト削減対策大村市新行動計画に基づきコスト削減を図る。						
見直し	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	雨水施設の整備であることから受益者の特定ができない。又、国、県の要綱等により交付金の割合、交付対象範囲が定められている。						

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	事業の成果として、雨水整備率が計画どおりに達成されている。新幹線事業等の他事業とも協議・調整を行い、同時施工を実施することで、工事費のコスト削減が図れることから、当年度も計画的に事業を継続する。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	雨水整備率の向上につながるとともに、建設工事費のコスト削減を図ることができる。

1次評価	今後の方向性		2次評価	対象外	今後の方向性	
	終期設定			終期設定		
	意見等			内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。